

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072400779		
法人名	特定非営利活動法人まんでん		
事業所名	グループホームまんでん		
所在地	長野県上伊那郡飯島町飯島2880-1130		
自己評価作成日	平成21年12月20日	評価結果市町村受理日	平成22年4月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072400779&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成22年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内にこもることのないように声かけし、戸外に出ていただき、四季折々季節の風景・風を肌で感じ、自然のすばらしさを体感していただいています。「いいけしきだね～」「気持ちがいいね～」の言葉が合言葉模様になっています。
いつも笑顔、笑い声があふれスタッフと利用者さんの話し声、歌声が聞こえてくるそんなホームを目指しています。

ホームは中央アルプスや南アルプスが望める高台にあり、時には野猿も庭に現れる豊かな自然環境の中に設置されている。年々高齢化に伴い認知症の方が増加しつつある現況を見聞きする中で運営者はグループホームの必要性を認識され、地域の方々の理解を得ながら飯島町役場と連携を図り開設されている。特定非営利活動法人として適切な運営体制の下、管理者は長い経験と専門性を活かし職員と一体となってホームサービスの質の確保と向上に努めている。入居者の高齢化に伴い発生する身体機能の低下を日常の寄り添いのケアの中で見極め、職員間で情報の共有を図る取り組みをされている。なお状況変化が見られた折には早い時点でご家族に報告し話し合いが持たれている。看取りにあたり医師、職員、関係者が連携を図り安心して納得が得られるよう支援されている。入居者は大変明るく穏やかに過ごされておりご家族の安心と安全に繋がっている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	確認のため見やすいところに掲げてあります。	地域密着型サービスとしての役割が組み入れられたわかりやすいホーム理念を作成し、ホーム内の分かりやすい場所に掲示されると共に、ケア会議の折に話し合わせ共有を図り、ケアサービスの実践に活かされている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々から新聞など配り見ていただいています。顔を合わせたら挨拶を心がけています。地域のイベントにでかける。	入居者は、地域のイベント(コスモス祭り、福祉祭り等)や保育園との交流、小学校の運動会見物、中学校生の演奏会などの交流を楽しまれている。なお近隣の方々へホーム新聞を配布して馴染みの関係づくりに努められている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回は、法人で認知症関連の講演会など開いています。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ごと、活動報告して、意見要望など聞いています。	今年度においては、運営推進会議を定期的開催し、ご家族代表、区長、隣組、民生委員、町役場担当者、警察、消防署等多くの地域関係者が参加して、事業所の取り組み内容や、具体的な課題(避難訓練、敬老会等)について話し合わせ助言を頂いている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護計画を提出したりケア会議に参加しています。認定更新時、担当者と連携をとっています。	地域の包括支援センターで行われるケア会議に参加し、ホームの近況を伝え情報を共有すると共に、町役場担当者と連携を図られている。	

外部評価結果(グループホームまんでん)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての学習を、ケア会議などでしています。玄関には、チャイムなど付け、カギはつけていません。	ケア会議の折に身体拘束について話し合わせ、身体拘束によって入居者が受ける身体的、精神的弊害について職員全員が理解しており、ケアの実践に活かされている。訪問時玄関に施錠されておらず、抑圧感のない自由な暮らしが伺えた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議などで学ぶようにしています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加しケア会議などで、復命しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、説明し同意を得るようにしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にアンケートなどお願いし、意見・要望を出してもらっています。訪問時にも、お話を伺うようにしています。	日頃の寄り添いのケアの中より得られた入居者の「つぶやき」を個別の介護記録書に書きとめ、要望の把握に努めると共に、ご家族訪問時の話し合いや、ご家族よりアンケートを取るなどをして意見の表出に努められサービス提供場面に反映されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで意見を聞くようにしています。	ミーティング時に職員より要望のあった勤務体制の改善について、事務局長と話しあいの下提案が受け入れられたことを伺った。	

外部評価結果(グループホームまんでん)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>体調管理には、注意しています。研修会などにも参加できるよう声かけしています。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会にはできる限り参加するようにし、ミーティングで報告もしています。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>相互評価会議に参加し、相互訪問研修などとしています。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面談で、来所していただき本人の様子を見たり、ホーム内の見学をしたりお話をしたりしていただいています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>御家族のお話を、ゆっくり聞くようにしています。(今までの経緯など)</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と、家族の思いを聞きながら、サービス、支援を考えます。</p>		

外部評価結果(グループホームまんでん)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に笑ったり、喜んだり、困ったりを感じるようにしています。協働しながら生活するようにしています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも、できる限り来処していただきご本人とゆっくりすごせるようにしています。イベントを計画し、参加していただくようにしています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会いに出かけたり、来所していただいたりしています。	ホームでは、知人や友人との交流を図るために会いに出かけられたり、ホームへの訪問の受入れを積極的に行い、地域社会との接点を持ちながら関係性の継続に努められている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に入る時間以外は、皆で共同スペースで過ごしています。(お茶を飲んだりお話ししたり)		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外で逢ったりすると、お互い「どうですか？」などと声かけしたりホームに顔を出してくれたりしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	記録に本人の言ったことなど書くようにしています。センター方式など使いアセスメントしています。	日々のケア場面の中での声掛けや表情より得られた入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努められている。個別記録書にご家族の要望、職員、医療、夜間対応等色分けで書き留めケアに反映されている。	

外部評価結果(グループホームまんでん)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にできる限り教えていただいたり、本人の話の中から聞き出したりしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること、できないこと、いやなこと、などシートを使い見直しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスなどで、ケアのあり方など意見交換しています。ご家族にも連絡しています。	日頃のケアの中より得られた入居者の意向やご家族訪問時の話し合いより出された意向等についてカンファレンス時に職員全員で話し合い介護計画に反映されている。なお入居者の高齢化に伴い状況変化も多く見られ、変化に応じた見直しも行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に、本人の言葉、エピソードなど記入しています。ケアプラン実施表を記入し実践するように心がけています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診など外出は、柔軟に対応しています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員に地域の消防、警察、民生委員などお願いして、ホームの理解をいただき、協力もいただいています。		

外部評価結果(グループホームまんでん)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、御家族の希望に応じ職員同行または、代行をしています。情報提供もしています。	入居者やご家族の希望を踏まえて、かかりつけ医への受診支援が行われている。なお必要に応じて受診には職員があたり、入居者の日常の状況や変化について、情報提供が行われている。なお協力医による定期的な訪問診療も受けられている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し対応しています。24時間連携が取れるようになっています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供し、退院まで御家族、病院と連絡を密に取り合っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う同意書をいただいています。	重度化に伴う同意書を作成し、入居者、ご家族の意向を確認し医師、職員、関係者と連携を図り、安心して納得が得られる最期が迎えられるよう支援されている。今年度は2名の看取りが行われたことを伺った。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練をしています。マニュアルなど表示しています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者と共に避難訓練を行っています。連絡網の確認などもしています。	災害時対応マニュアルが作成され、年2回の避難訓練が行われている。災害時には隣家へ自動的に連絡が伝わる仕組みになっており、近隣住民よりの協力体制が確立している。	

外部評価結果(グループホームまんでん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分にされたらどうか、言われたらどうか、をいつも心に置いて声かけするようにしています。	職員は入居者の生活歴を把握し、入居者一人ひとりに合った言葉掛けや気持ちを大切にケアに努められている。家族的な雰囲気の中でも、入居者の尊厳を無視した対応にならないよう配慮し支援されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どうですか？いいですか？など日々の会話の中で働きかけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて生活していただくようにしています。(したいことをしていただくなど)		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる人は、自分で選び着替えています。できない人は、一緒にするようにしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備し、食事し、片付けをしています。	職員(栄養士)は入居者の嗜好や身体状況を把握すると共に、日頃より入居者に希望を聞きメニューを決められている。入居者は職員の支援を得ながら食事に関する一連の作業(調理の下ごしらえ、配膳、下膳、食器洗い、食器拭き等)をされている。職員と共にテーブルを囲み楽しそうな食事風景が見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による管理の下支援しています。		

外部評価結果(グループホームまんでん)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしています。歯科衛生士によるケアを設けています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をとり支援をしています。	排泄チェックシートを活用し、排泄習慣や身体状況の把握に努められスムーズな排泄に向けた支援が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をとり予防に心がけています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自己決定をして、入浴していただいています。	入居者より「お風呂に入りたい」との意思表示があり、希望に副った入浴支援が行われている。(時には夜間就寝前にお風呂願望を伝えられる入居者があったことをお聞きした)	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したいとき、自由に休んでいただいています。居間だったり、コタツだったり。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンスなどで、様子の確認をし、看護師に情報を伝えています。		

外部評価結果(グループホームまんでん)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できること、楽しみごと、など見つけ、声かけしお願いしています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り戸外に出かけられるように、支援しています。(ドライブ・買い物・お花見など)	入居者の高齢化に伴い身体状況の変化(車椅子使用)が見られるものの、買い物、外食(回転寿司等)、散歩、楽しみ事のための外出(ぶどう狩り、花見(桜・藤・コスモス)、ドライブ、ご家族との外出等ストレス解消に向けた支援が行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方には、使えるように支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など、希望があれば自由にお話していただいています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったりしています。温度・湿度計で管理しています。利用者さんの声に耳を傾けています。	木造建築仕様のホームは木の香りと温もりがあり、梁のある高い天井は吹き抜けとなっており開放感が味わえる。居間には和室も設置され季節から大きな炬燵が用意され入居者が職員と共に集い、和むことの出来る工夫がされている。なお窓外に望める景色より季節感も得られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長いすを置き、場所作りをしています。利用者同士居室の利用もしています。		

外部評価結果(グループホームまんでん)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物品を持ってきて使用していただいています。	ホームでは持ち込み品に制限がなく、入居者一人ひとりが大切にされていた物や使い慣れた馴染みの品(整理タンス、ベット、籐椅子、テレビ、衣服等)を持ち込まれ、居心地よく過ごせる居室づくりをされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりスロープなど取り付けています。		